

助成対象事業成果概要報告書(概要版)

制度名	チャレンジ向け通信・放送役務提供・開発推進助成金
助成対象事業名	タブレットと音声透かしを利用した劇場型コンテンツ字幕サービスの開発
助成対象事業者名	株式会社ビューティフルワンズ
助成金の額	3,568千円

【助成対象事業の全般について】

①	助成対象事業の概要	<p>本事業では劇場型コンテンツにおける字幕表示サービスの開発をおこなった。このサービスは聴覚障害者向けに、タブレット端末を貸し出し、そのタブレットにコンテンツの進行に合わせた字幕情報を表示するものである。これは、弊社オペレーターが操作するコンピューター(親機)画面と観客へ貸し出したタブレット画面(子機)が同期される仕組みである。</p> <p>親機が音声透かしと呼ばれる音波を合図に、子機は内部にダウンロードされたコンテンツを表示することで、劇場型コンテンツを、聴覚障害を持つ方々だけでなく、表示を多言語に切り替えることで外国人観光客「にも」楽しんでもらう機会を創出することができる。</p>
②	助成対象事業の目標	<p>本事業の目標は、これまで聴覚障害者向けサービスが乏しかった劇場型コンテンツにおける字幕表示サービスを充実させることに貢献することである。具体的には、全国の能楽堂にこの仕組みの効率化を図り普及させ収益を確保する。そして聴覚障害者だけでなく2020年の東京オリンピックも見据え外国語にも応用の幅を広げサービスの自立化をおこなっていく。</p>

【平成27年度実施部分について】

③	助成対象事業の実施内容	<p>平成27年度の事業では、本サービスの核となる「親機と子機のページ同期」の仕組みを構築した。また、本サービスの実証実験のためにコンテンツも能楽20演目をデジタル化した。実証実験では、矢来能楽堂、横浜能楽堂、国立能楽堂、その他大型劇場で各公演にて30台のタブレットがコンテンツの進行に合わせて、字幕データが表示されるか検証し、想定していた成果を得た。</p>
---	-------------	--

④	助成対象事業の成果	<p>本事業で得られた成果としては、矢来能楽堂、横浜能楽堂、国立能楽堂における実証実験までこぎつけることができた。定数的な成果としては、累計で90台の貸出実績をあげることができた。また、これらに加え、大規模劇場からの利用申し出もあり、能楽堂を含めると、本年度で5ヶ所の劇場施設にて実験をおこないサービスとしての安定性の追求と需要の高さを実感した。しかし、本サービスの弱点も実験を重ねるうちに散見された。</p> <p>特に、機材のメンテナンス、現場の進行係の派遣と育成のコストと手間が普及のネックになっていることも明らかになった。来年度は、上記3点の課題を解決するために、遠隔操作によるメンテナンスとコンテンツ運用の地方へ集積する仕組みを構築していきたいと考える。事業コストが都市圏に比べて低い地方へ本サービスのオペレーションを集積し、新しい産業創造を通じて地方創生へ貢献する。</p>
⑤	補足説明事項	